
月の綺麗な夜

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の綺麗な夜

【Nコード】

N8055P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

月の綺麗な夜、彼に告白をした。月の綺麗な夜、彼女の告白を受け入れた。そして、月の綺麗な夜に最後のメールを送った。

「あなたの事が好きなの」

その夜は、月がとっても綺麗だった。多分、そのせいだったのに
違いない。

たまたま一緒になった帰り道。特に会話の無いまま、夜道を二人
で歩いているそんな時、私は本当はこう言おうとしたのでは無かつ
たかしら。

―― 月が、とても綺麗ね。

彼は、それで察してくれたかもしれない。

あるいは、その言葉を額面通りに受け取って、ただ「そうだね」
とでも返してくれたただだったかもしれない。それでも、私は充分
に幸せな気分になれただろうけれど。

どちらにせよ、もう出してしまった言葉は取り戻せなかった。

とても月が綺麗な夜だった。

偶然一緒になった帰り道、ここで気の利いた台詞をすぐに出せる
ようなら、僕のこれまでの人生はもう少し華やいだ物になっていた
んじゃないかと思う。

だけど、今の僕にとっては、こうして彼女と一緒に月明かりの下
を歩いているだけで、十分に幸せな気分だった。

そんな僕に、彼女はある言葉を囁いた。

ハッとして彼女の方を見ると、彼女は夜空を見上げ、そこに浮か
ぶ月を見つめている。

もしかしたら、聞き間違えたのかもしれない。彼女は本当は、こ
う言ったんじゃないかただろうか。

―― 月が、とても綺麗ね。

もしそうだとするならば、僕はこう応えるべきだった。

—— そうだね。

それとも僕は、その言葉を憤み深い時代に生きた文豪が望んだ通りに深読みして、やはりこう返していたのだろうか。

「僕も、君が好きだよ」

余命は長くて5年。

近頃の身体の不調を気にして検査を受けた私に告げられたのは、そんな非情な宣告だった。

この先、何十年と続く人生の中の5年間というならば、それは随分と長く感じられただろうに、この先の5年間が最後の5年だと感じた途端に、ひどく短い時間に思えるのだから不思議なものね。

この先の5年間で、私は一体何が出来るだろう。

今日までの5年間、私は何をして過ごしていただろう。

友達とショッピングを楽しみ、旅行に行き、お節料理に舌鼓を打ち、バレンタインデーにはチョコを買い、慣れない浴衣を着て花火見物、ハロウィンにカボチャ頭の人形を机に飾り、クリスマスイルミネーションに歓声を上げて、おそばを食べて除夜の鐘。

この5年間とは言わない、これまで生きてきたどの1年も、常にそんな風に当たり前に過ぎていくだけの物だったんじゃないかったかしら。

なら、この先の終わりの5年間も、その1年をただ5回繰り返すだけで終わるだけなのかもしれない。

私は、それで良いと思った。

これからの5年間に何を為して、何を手に入れ、何を残そうと、5年が過ぎた時に辛くなるだけだと思えたから。それは、私自身にとっただけではなく、これからの5年間に私に関わる全ての人にとってもそうであるに違いない。

だから、言うべきじゃなかった。
いくら月が綺麗だからといって、それを彼に告げるべきじゃなかった。

まして、どうして私は言ってしまったのだろう。

「あなたが好きなの」
なんて。

余命は長くても5年程。

その宣告を、僕は妙に冷静に受け入れた。僕にそれを告げた医師が、再度同じ言葉を繰り返したのは、僕の耳がそれを受け入れなかったと判断したせいだったのだろう。

さらに同じ宣告をさせないために、僕は慌てて返事を返さなければならなかった。

目の前に迫った死が怖くないと言えば、嘘になるだろう。

幸いなことに、僕はあまり近い人の死に触れた経験が無かった。そのせいで、僕にとっての死は、とても遠い存在だ。

わずか5年後に自分が死ぬと知ってもなお、まだどこか現実感が感じられない。

それでも、僕は死ぬのが怖いと思った。

あまりにも遠い存在で、現実感が感じられないからこそその怖さなのかもしれない。

そして、僕がこれまで築き上げてきた思い出の数々が、急に色あせて見えるようになった。

5年後、僕はそれらを全て置いて消えていく。

子供の頃に小遣いを貯めて買った玩具、良い点数をつけられたテスト用紙、初めて買ってもらった腕時計、好きだったCDや映画のパンフレット、本。

僕はこの先の5年間、本当ならその思い出を何の感慨も持つ事の

無いまま増やしていった事だろう。

だが、全て失うという前提の元で、僕はもう思い出づくりなんて出来そうにない。

だから、答えるべきじゃなかったんだ。

「僕も、君が好きだよ」
なんて。

酷いことをしていると思う。

あの月夜の告白が受け入れられた、その時から、私たちはまるで時間を惜しむように愛を育んだ。

いいえ、私は実際時間を惜しんでいた。

もう、たったの5年間しか彼と一緒にいられないのだから。

それまで友人や家族と一緒に過ごした時間を、彼と一緒に過ごすようになった。

初詣も、バレンタインデーもホワイトデーも、夜空を彩る花火の下で二人で歓声を上げ、ハロウィンにはパンプキンパイを作って、そしてクリスマス。

あれから、既に4年が経過していた。

残り1年というところで、彼は私に指輪をくれた。

薬指に填められたプラチナリングの上で、キラキラ輝く小さなダイヤモンド。

「とても、綺麗ね」

ああ、あの月の綺麗な夜にこう言っていたなら、きっとこんな悲しい思いも、そしてこんな幸福感も感じないで済んだのに。

お揃いの時計、チョコレートに添えられたメッセージカード、写

真、そして形としては残らなかった多くの思い出。

それらを全て残して消えていく僕は、それでもそれを手に入れずにはいらなかった。

そうして過ぎていった4年間。残りはあと1年。

僕は、彼女に指輪を贈った。

酷いことをしている自覚はあった。僕にはもう、彼女を幸せにする時間は、たった1年しか残っていないのに、彼女に永遠の約束をこんな形でプレゼントしたのだから。

1年後、彼女は僕を嘘つきだと詰るかもしれない。

薬指に填めたリングを光にかざして、

「とても、綺麗ね」

そう囁き、涙する彼女に、僕もなんだか泣きたくなった。

最後に直に顔を合わせたのは、もう1ヶ月も前。

彼の忙しさのせいと、私の忙しいという言い訳のせいで、ただメー
ールのやりとりをするだけの一ヶ月。

だって、もう顔を合わせられない。

顔を合わせてしまったら、声を聞かれたら、きっと私の嘘がバレ
てしまう。

ごめんなさい。

私、あなたに嘘をついてたの。

子供が欲しいって言ったでしょ。

最初は女の子で、二人目は男の子で、女の子にはピアノを習わせ
るの、男の子は野球かサッカーをやらせるわって。

それで、いつか孫が出来たら、孫を甘やかして子供たちに叱られ
るの。甘やかさないで、ってね。

そんな事を、笑いながら話したよね。

でも、全部嘘なの。私は、そんな未来なんて夢見てなかった。

この5年間、そんな風に嘘ばかり吐いていたの。

そんな私からの唯一の罪滅ばし、それは、せめてあなたには何も知らせないまま、こうして終わる事だけ。

嘘ばかり吐いて、ごめんなさい。それでも、私はあなたを愛していたの。それだけは、本当よ。

カーテンを開いた窓の外は、綺麗な月夜。私はそれを見つめながら、最後のメールを彼に送った。

今夜も、月がとても綺麗ね。

彼女の忙しさに甘えて、そして僕の言い訳で過ぎた1ヶ月。

彼女に会いたい。だけど、もう会うわけにはいかなかった。

僕のこんな姿を見れば、彼女は全てを察してしまっただろうから。

ごめんね、僕は君に嘘を吐いていた。

ウェディングドレスを着たいと言った君に、ホテルなんかじゃなくて小さな教会で式を挙げようって提案した僕。

ピアノなら実家にあるから持つてこよう。近所に、強い少年野球のチームがあるんだ。そこに入れて、そしていつか甲子園でプレイする息子の姿が見たいね。

君の紡ぐ夢に便乗して、僕はいっぱい嘘を吐いたよ。

そんな僕から、君の為に出来る唯一の事は、君に何も知らせないまま終わる事だけだ。

本当に、ごめん。

それでも僕は、君のことを本当に愛していた。この5年間、それだけが唯一の真実だったんだ。

窓から、眩しいぐらいの月明かりが部屋に差し込んでいる。僕はその明かりの下で、最後のメールを彼女に送った。

今夜も、月がとても綺麗だね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8055p/>

月の綺麗な夜

2010年12月29日23時25分発行